

心に残る文化財子ども塾 ～雲南市立掛合中学校～

1. 活動の概要

6月19日(金)、雲南市立掛合中学校で『心に残る文化財子ども塾』を開催しました。はじめに埋蔵文化財調査センター職員の説明で、掛合町の遺跡や隣接する吉田町内で行われた発掘調査の様子、縄文時代・弥生時代の人々の生活について学びました。掛合町内にも縄文土器や弥生土器が出土した遺跡があり、この時代の人々が暮らしていたことなどが紹介されました。その後、本物の出土品を見たり、実際に触れてみる体験もしました。中国横断自動車道尾道松江線建設に伴う調査で吉田町内の遺跡から出土した5000年以上前の縄文土器や、隠岐の島から運ばれた黒曜石について、興味深そうに観察したり、出土品の質感や重さを感じていました。

休憩の後、古代米といわれる赤米の炊飯とドングリ粉を使った縄文クッキーづくりを行いました。赤米の炊飯は復元した土器を利用して行いました。縄文クッキーは、ドングリ粉と学校で用意した肉や卵などの食材を使って調理しました。食べた感想は「(調味料がないので)味がしない」、「味付けしていないけどおいしい」などさまざまでしたが、赤米・縄文クッキーとも生徒さんが残さず食べました。

2. 活動の様子

1)古代の生活について知ろう



「掛合町でも縄文土器が出土しています。」



本物の縄文土器の重さはどうかな。

2)古代食づくり



しっかり焼こう。



いただきます。

3. 子ども塾を終えて

1)生徒の皆さんから(アンケートの回答より)...

心に残ったこと

- 古代食づくり(今と味が違う、思ったより味がついている)
- 本物の土器をさわったこと
- 遺跡がたくさんあるのがわかったこと
- 何千年も前の土器の模様や形がよく残っていること

もっと知りたいこと・体験してみたいこと

- 火おこし体験
- 土器づくり体験
- 遺跡を実際に見たい
- 土器の持つ意味を知りたい
- ほかにいろいろな土器を見たい
- 縄文、弥生以外の時代の生活を知りたい
- 赤米・縄文クッキー以外の古代食を知りたい
- 海外の古代食を知りたい

2)担任の先生から…

よかったこと

- 本物の土器を実際に見たり、手に取ったりできたこと
- 調味料がない時代の食を体験できたこと
- 生徒が生き生きと活動する姿がとても印象に残った

要望と意見

- 座学でも、火おこし道具などの実物・実演があると生徒がイメージしやすくなると思った。

3)埋蔵文化財調査センターから

掛合町は、ほかの市町村に比べて発掘調査が行われておらず、特に縄文・弥生時代については手がかりが少ないため、同じ雲南市内にある遺跡の調査成果で補いながら説明をしました。吉田町の志谷Ⅲ遺跡出土の本物の縄文土器や弥生土器、石器などに実際に触れてもらいましたが、掛合町内の遺跡や出土品は写真での紹介となり、実物がお見せできませんでした。自分たちが住む町の出土品にふれてもらえれば、地域の歴史への関心がより高まったかも知れません。

体験活動では、古代食づくりとして赤米炊飯・縄文クッキーに取り組みました。縄文・弥生時代にも味付けの工夫はあったと思いますが、塩でさえ貴重品で、多彩な調味料が簡単に手に入る現代とは大きく異なっていたはずですが、味付けなしで食べてもらいましたが、「せめて塩味がほしい」、「思ったより味がついている」などさまざまな感想がありました。

今日の活動を通じて、古代の生活が「現代とは違う」ことを少しでも体感していただけたのではないのでしょうか。住んでいる地域の歴史への関心、今後の歴史学習への興味・関心を高めるきっかけになれば幸いです。